

新しい“青雲祭”をつくりあげよう

青い空に浮かぶ白い雲が高く見えるようになってきました。来週15日(火)、16日(水)には、いよいよ第52回の青雲祭が開催されます。生徒たちは、残暑厳しいなか、また新型コロナウイルス感染対策や熱中症対策を行いながら、これまで準備を進めてきました。文化の部では、全校制作、各学級の発表や各学年の発表、また文化部の発表、展示等を予定しています。新型コロナウイルス感染拡大防止の制約があるなか、短縮した形ではありますが、生徒一人ひとりの、各学級の、各学年の、そして全校の成長のために、有意義な“青雲祭”にしようとして生徒会本部を中心に“新しい青雲祭”を考えてきました。また、発表の場がなかった文化部の生徒にとっては、貴重な発表の機会となると思います。体育の部も、様々な制約のなかですが、競技内容を考え、練習を重ねてきました。例年ほどの準備ができなかったところではありますが、きっと生徒たちは全力で頑張ってくれることでしょう。保護者の方々の参観については、通知させていただいたように体育の部だけになりますが、一生懸命に頑張る生徒たちの様子をご覧いただきたいと思います。

さて、東京オリンピック・パラリンピックも新型コロナウイルスの影響で来年に延期となりましたが、青雲祭を前に、以前聞いた講演のことをふと思い出しました。リオデジャネイロ・オリンピックの『陸上競技日本代表監督』だった『山梨学院大学スポーツ科学部の麻場一徳教授』のお話を聞く機会がありました。4×100mリレーで例のアンダーハンドパスを使って『銀メダル』を獲得した全日本の陸上競技の監督さんです。(1走 山縣亮太 2走は飯塚翔太、3走 桐生祥秀、そしてアンカーはケンブリッジ飛鳥でしたね。とても感動しました。)しかし、女子マラソンでは、福土加代子選手が、メダルが期待されていたにもかかわらず、メダルをとれず、監督としてたくさんのバッシングを受けたそうです。また、50km男子競歩では、荒井広宙選手が3位でゴールするも、抗議を受け、一度は失格になりながらも、一転、日本側の抗議が受け入れられ、銅メダルを獲得するなど多くのドラマがあったオリンピックでした。麻場先生の話の何うにつけ、ものすごい重圧の中、選手も指導者も精一杯頑張っていたことを改めて感じました。そのお話の中でとても興味深かったのは

『個人の種目であればあるほど、チームの雰囲気がとても大切になる！雰囲気のいいチームにいないと、自分の能力が発揮できない！選手だけでなく支えるスタッフも一緒に、そのことを常に意識させて、チームの雰囲気をつくらせる』

こういう考え方に基いて実践しているというお話でした。そして、これは、精神論ではなく、『脳科学』に基づくものだということでした。私は、これを聞きながら「まさに、クラスや学校そのものだ！」と思いました。そして、そのことを日本中から選ばれた選手でさえ意識している、自然とチームの雰囲気がよくなることはないのだから、成長の途中である生徒たちには、自分たちが意図して、よい空気や雰囲気をつくることを考えさせることが大切だと改めて思い知らされました。こうして起こす『**脳の同時発火！**』(私もがんばるから、あなたもがんばれ！という自然な心からの応援。ここでは失敗してもいいんだ！自分一人じゃない！というチーム意識)が結果的に一人ひとりのパフォーマンスをあげ、好結果、好循環を生むのだそうです。「なるほど」と勉強させられました。ちなみに、この考えは水泳日本代表チームも、卓球日本代表チームも、体操日本代表チームなども意図的にやっていたということを後で聞き、改めて納得しました。本校でも、今までとは違う“新しい青雲祭”に向けて、また今後の学校生活でも『脳の同時発火！』を促していきたいと思います。青雲祭も、そして今後の学校生活についても引き続き、応援よろしくお願いたします。

